

MCS税理士法人立川事務所通信

1月号 VOL・149

MCS税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町3-11-4 東京ロジテック千代田ビル4階

電話：042-595-7671 F A X：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> mail:info@mcs-office.jp

相続専用HP：<http://www.souzokushien110.com/>



えんまん

遺言相続支援センター

明けましておめでとうございます。「人と比較をして劣っているといっても、決して恥ずることではない。けれども、去年の自分と今年の自分を比較して、もしも今年が劣っているとしたら、それこそ恥ずべきことである」は松下幸之助の言葉です。令和4年をどんな一年にするのかは自分次第。自分に期待したいですね。

【アスリートたちの報奨金】

開催の可否はあったものの終わってみれば「感動をありがとう」の東京2020オリンピック・パラリンピック。日本選手が獲得したメダルは金が27個、銀が14個、銅が17個で合計58個。パラリンピックでは金が13個、銀が15個、銅が23個で合計51個という見事な結果でした。オリンピック・パラリンピック競技のメダリストに対しては、それぞれ日本オリンピック委員会（JOC）、日本障がい者スポーツ協会（JPSA）から報奨金が支給されます。その内訳はオリンピック競技では金メダル500万円、銀メダル200万円、銅メダル100万円。パラリンピック競技では金メダル300万円、銀メダル200万円、銅メダル100万円が支給されます。国としてはメダリストの栄誉を称える観点から、上記の報奨金については所得税と住民税を非課税としています。これに加えて指定された団体から交付される報奨金についても上限付きで非課税措置の対象となっています。競技団体やスポンサーからの報奨金はさまざまであり、ある競技では所属企業から1億円の報奨金が支給されたり、協会から1千万円の報奨金が支給される選手もいれば「報奨金は出さない」という競技団体もあるようです。私たちに夢と感動を与えてくれた選手にはそれ相応の見返りがあってもいいとは思いますが、こればかりは何とも言えませんね。



【中身そのまま爆発的ヒット！】

アサヒビールの「生ジョッキ缶」が人気です。味わいが勝負のビール商戦とは一線を画し中身はスーパードライのままです。特殊な容器の開発に2年をかけて「生ジョッキの家飲み」を実現。ふたを全開にすれば白い泡がモコモコと出て、居酒屋で飲むようにクリーミーな泡をゴクゴク楽しめます。ふたを開けると自然に泡が出る面白さはSNSや動画で反響を呼び、ビールを飲まない若者たちの需要も伸びています。社を挙げた発想の転換の開発ストーリーは必読です。



今月の教えてキーワード：【DX（デジタルトランスフォーメーション）】

デジタル技術による生活の向上やビジネスの変革を指す。2004年にエリック・ストルターマン教授が提唱し英語圏ではトランスを「X」と略すため「DX」と表記される。経済産業省のDXレポートでは、日本企業が市場で勝ち抜くためにDXの推進が必要不可欠としているが、既存システムのレガシー化や人材不足などの課題も多く、DXが実現しない場合は「2025年の崖」と名付けられた経済リスクが起これると警告している。

【商売のフシを作る】

「竹に節がなければズンバラボーで、とりとめがなくて風雪に耐えるあの強さも生まれてこないであろう。竹にはやはりフシがあるのである。同様に、流れる年月にもやはりフシがある。ともすれば、とりとめもなく過ぎていきがちな日々である。せめて年に一回はフシを作って、周辺を整理し、長い人生に耐える力を養いたい。そういう意味では、お正月は意義深くて、おめでたくて、心もあらたまる」。これは「経営の神様」といわれた松下幸之助の言葉です。今でも名言として多くの人々の心に響くのは、新しい年の始まりを「フシ」と捉えて襟を正す感性が、日本人の普遍だからでしょうか。物事をどう捉えるか、どう解釈するかで、人生の重みや深みはまったく違ってきます。特に商売で風雪に耐えた経験が多い人には、松下幸之助の言葉がじ

わじわとくるのではないかと思います。ところで竹は不思議な植物です。中身は空っぽで節があり、木でもなければ草でもない。「竹、節ありて強し」の言葉どおり、節のおかげで上に上にと高く伸びても強度が保たれるそうです。また一節



目が割れると一気に割れていきますが、その一方で簡単には折れないしなやかさも持ち合わせています。高さ何メートルにもなる竹が風雪に耐えられるのは、節が作り出す「強さ」と「しなやかさ」の剛柔併せ持った性質によるものなのです。近年「レジリエンス」という言葉を見聞きすることが増えました。世界的に注目されている言葉で、日本語では「折れない心」「精神回復力」と訳されていますが、要するに「しなやかさ」のことでしょう。心も体もすべてにおいて「強さ」を追求した時代が長く続いたあと、これからは「しなやかさ」が時代を生きていく心得となるのかもしれない。柔らかく、しなやかなものは、堅くて強いものより丈夫だったり長持ちだったりします。この新年をフシにして、今年も強く、そしてしなやかに、長い人生に耐える力を養っていきましょう。ちなみに、地上から出ている竹の1本1本は、すべて地下茎でつながっています。この「つながっている」というイメージは心強いものですね。

あせると春は来ない
志んていと春は来る

今を生きる！

先人の言葉

グラフィックデザイナー、絵本画家である熊田五郎の言葉。人生はなかなか思いどおりにいかないこともある。だからこそ、やるべきことをやったら静かに待とう。

【ミステリと言う勿れ】

男子大学生の主人公が、論理的で既成概念にとらわれない話を語るうちに、難事件が鮮やかに解決されていく物語。ミステリーであってミステリーでない田村由美の漫画です。主人公の語りを聞くために続きを読んでもしまう不思議な一冊です。

